

韭 工 ニュース

県立韭崎工業高等学校

総務部

第 107 号

2013.07.17

**体験入学開催・春季審査会で金賞受賞
フェアフィールド市高校生歓迎
全国グレコ・国体予選で圧勝
高校野球開幕
山本先生世界大会で準優勝**

第 1 回体験入学を開催

例年より 2 週間も早い梅雨明けとなった猛暑のなか、第 1 回中学生体験入学及び学校説明会が 7 月 13 日(土)に行われました。今回の体験入学は、本校 6 学科の中から 2 つの学科を体験してもらいました。中学生 73 名・保護者 37 名・中学校教職員 2 名と多くの方に参加して頂きました。参加生徒は、①文鎮の制作 ②テーブルタップの製作 ③CGアニメーションの製作 ④電子顕微鏡・香りの合成 ⑤省エネルギーカー体験試乗と溶接体験 ⑥レゴロボットの制御操作の体験を行いました。また、保護者と中学校教職員の方々には、体験実習中の生徒の様子や学校施設の見学及び学校説明会を行いました。本校や工業高校の理解及び生徒の進路選択に繋がれば幸いです。



フェアフィールド市高校生歓迎行事

7 月 11 日(木)午後、米国カリフォルニア州フェアフィールド市の高校生 6 人が本校を訪問しました。この事業は、韭崎市の国際交流事業として、姉妹都市にホームステイをして高校生と交流するという目的で行われています。歓迎セレモニー後、弓道部では的めがけて矢を射っていましたが、その難しさに感服していました。また太鼓部では簡単なリズム練習をして、即興の日米セッションが組み込まれ演奏後には全員が達成感に満たされました。そして全員が浴衣に着替え、茶道部の呈茶を楽しみ、特に 5 名の女子生徒は満面の笑顔で、着物文化や茶道に興味を示していました。交流会では、日本古来の遊びである、けん玉・独楽・ダルマ落とし・福笑いと折り紙教室を行いました。本校生徒も初めての体験となった者も多かったですが、言葉の壁など感じさせない和やかな雰囲気となり、短い時間でしたが心温まる交流ができました。



写真部：春季審査会で金賞受賞

6 月 22 日(土)に甲府工業高校で春季審査会が行われました。県内の写真部 27 校より 1849 作品が出品されました。今回の審査を担当して頂いたのは、日本大学芸術学部写真学科の佐藤英裕准教授でした。この審査会は 1 年生にとっては最初の公式審査会となります。本校からも 72 作品を出品し、最終審査には 6 作品が残りました。その中で最高賞の金賞に鈴木英海(3 年:甲府北中出身)が選ばれました。また、佳作にも 5 名の生徒が選ばれ、団体でも 2 年連続の準優勝を納めることが出来ました。



金賞受賞作品

レスリング部：全国グレコ・国体予選で圧勝

レスリング部は、夏の全国高校グレコローマン選手権と秋の国民体育大会の山梨県予選へ参加しました。6 月の全国グレコ予選では、50kg 丸山智也、60kg 文田健一郎、74kg 宮澤正毅、84kg 和智輝

の4階級が優勝、2位に大石和輝、栞原康志郎、林雷、藤原亮、3位に清水幸汰が入賞しました。55kgの小柳和也は8月のグレート世界選手権大会出場と日程が重なるため不参加でした。



7月の国体予選では7階級中、50kg丸山智也、55kg小柳和也、60kg大石和輝、66kg林雷、74kg宮澤正毅、84kg和智輝の6階級で優勝と圧勝しました。そのほか2位に藤原亮、3位に木佐貫史也が入賞。今回60kg文田健一郎はシニアの強化選手として全日本合宿へ参加のため、66kg栞原康志郎は怪我のため出場出来ませんでしたが、規定により今回の優勝者とプレーオフを行い勝った者が本大会へ出場します。全国グレコ、国体ともに昨年に続き日本一を勝ち取ってみたいです。

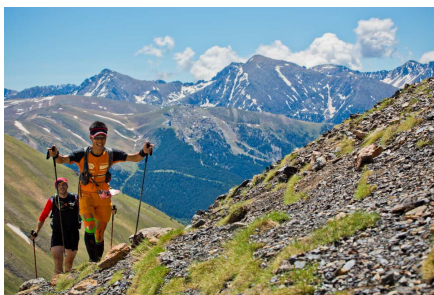
高校野球開幕:1回戦北杜高校にサヨナラ勝ち

7月13日から、第95回全国高等学校野球選手権記念山梨大会が開催されました。本校野球部は、大会2日目(14日)に北杜高校と対戦しました。序盤より再三のチャンスを作るも、相手投手の粘り強いピッチングの前にあと1本が出ず、ホームを踏むことが出来ませんでした。逆に6回表にランニングホームランで相手チームにリードを許し、0-1のまま最終回の攻撃を迎えました。9回裏1アウトから、代打高橋翼(2年:葦崎西中出身)がヒットとエラーで3塁まで進み、続く1番内藤公亮(3年:竜王北中出身)がセンターオーバーの3塁打で同点に追いつきました。その後、相手投手のワイルドピッチで決勝のホームを内藤が踏み、劇的なサヨナラ勝ち(2-1)で、3年連続の初戦突破を果たしました。残念ながら、2回戦の都留高戦(18日)は4-8で惜敗しましたが、3年生にとって最後の夏をキャプテンの今福義也(3年:葦崎東中出身)を中心に完全燃焼出来たと思います。



山本先生世界大会で準優勝

6月21日~23日にヨーロッパのアンドラ公国でアンドラウルトラトレイルに出場してきました。アンドラの面積は山梨の1/10、という小さな国です。この国では、タックスヘイヴンといって税制上の優遇措置がなされ、消費税はありません。このレースはスカイランナーワールドシリーズ第一戦で、距離170km、累積標高(登る高さの合計)13000m、かなり激しいコースで行われました。「未知への挑戦」です。レースは前半は特に膝痛に悩み苦しみましたが、我慢して走っていると痛みに慣れてきました。ある方に、「人は本番の中で3回までは耐えることができる」と言われたことを思い出しました。夜は満月、気温0度の中、膝までの川を何回も渡ったり、雪の上を走ったり、湿地を走ったり、刺激的な時間を過ごすことができました。夜が明けまた大きな山を3つ越え、最後の山ではもう終わってしまうことに寂しさを感じました。登り速く、下りゆっくり、このペースでこつこつと進んで行くと、スタートしてから31時間後、無事にスタート地点の街に戻ってきました。ゴールゲート手前では観客に「グラシアス」と言いながらゆっくり歩きました。結果は31時間10分で第2位のフィニッシュでした。応援ありがとうございました。アンドラにも届いていました。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>
e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp